

「京都を学ぶセミナー丹波編」第2回（開催報告）

平成30年6月6日
京都学・歴彩館
075-723-4835

平成28年度から開始した「丹波の文化資源」研究プロジェクトの成果を、分かりやすく解説する「京都を学ぶセミナー【丹波編】」第2回を、下記のとおり開催しましたので報告します。

記

■ 日 時 平成30年6月5日（日）13:30～15:00

■ 会 場 京都府立京都学・歴彩館大ホール

■ 参加者数 233名

■ 内 容

講 演 龍谷大学文学部 教授 山本 浩樹 氏

「明智光秀の丹波支配」

『丹波志』に領民思いの明君と評される明智光秀の丹波支配の実像はいかなるものであったか。歴史的に形成された中世後期の丹波の地域的特性と残された史料から、光秀と丹波の関係に迫る。

■ セミナーの様子と当日の参加者の声

2020年大河ドラマに取り上げられることが決定し、一躍“ときの人”となった明智光秀がテーマであったこともあり、事前の問合せも多く、当日も非常にたくさんの参加者を得た。明智光秀が活躍した亀岡や福知山地域からの参加者もみられ、参加者一人一人が生活する地域の文化資源に対する関心の高さを改めて示した。本能寺の変の首謀者で反信長の急先鋒、それと同時に領民思いで人間味溢れる明君というイメージが強い光秀であるが、今回、光秀による丹波攻略とその支配に焦点を当てたことで、これまで知られてこなかった明智光秀の人物像に光が当てられた。丹波地域で活躍した人物にスポットライトを当てることで、地域の新たな“魅力”や“可能性”が浮かび上がる内容であり、参加者からは「新しい光秀像を見ることが出来た」「光秀反乱の原因の一つとして興味深かった」など好評を博した。

